

歴史は未来の羅針盤

# 温故知新

これまで刊行しました、『近江日野の歴史』  
第一巻「自然・古代編」、第二巻「中世編」、第  
五巻「文化財編」、第六巻「民俗編」、第八巻  
「史料編」は、教育委員会や各公民館などに  
いて、一冊四、〇〇〇円で好評販売中です。ぜ  
ひともお買い求めください。

今回は、『近江日野の歴史』「史料編」から近現代における日野町の側面を紹介します。

江戸時代が終焉を迎え、明治維新により日本の近代化が始まりました。これ以降を近現代と呼び、百四十年余りの短い期間ですが、私たちに最も身近な時代だと言えます。近現代では、文明開化、日清・日露戦争の勝利、世界大戦と敗戦後復興、高度経済成長と不況などを経験し、環境や生活などの社会情勢が大きく変化しました。

## 繰り返される町村合併

記憶にも新しい平成の合併は、県下では五十の市町村を十九に改組し、多くの町村が消滅しました。当町も近隣市町との合併が検討されました。合併の枠組みもさることながら、合併自体に賛否両論あり、町長選挙で決着をみました。町村の合併は平成の時代だけでなく、これまでも何度か繰り返さ

れており、近現代は合併の時代とも言えます。しかし、合併はそこで生活する住民にとって大きな出来事であり、必ずしも順調に進められたわけではありません。時代を遡りながら、見てみましょう。

現在の日野町が成立した昭和三十年の合併は、一町六村(日野町、西大路・鎌掛・北比都佐・南比都佐・東桜谷・西桜谷村)によるものです。しかし、事前に示された県案では、日野町は西桜谷村を除く一町五村の合併であり、西桜谷村は朝日野・桜川両村(後の蒲生町)との合併でした。この時、西桜谷村は村を二分するほど紛糾しました。明治二十二年にも大合併がありました。同年施行の町村制は、近世以前より続く町村(合併後は大字)を合併するというものでした。それまで五十三あった町村が一町五村(日野町、西大路・鎌掛・北比都佐・南比都佐・桜谷村)に統合されました。なお、桜谷村は同二十七年に東西二村に分離しました。

## 明治の町村連合

明治の合併の基礎となったのが、連合戸長役場制(明治十八年実施)に先行して行われた町村連合です。行政事務効率化のため、六つの連合ができました(下表)。なお、下駒月村は甲賀郡の村々と連合しました。この六つの連合の構成町村と、明治の合併でできた一町五村の構成大字(ほぼ現在と同じ)を比較すると、その組み合わせに大きな違いがあることがわかります。それは、合併の枠組みが最終決定に至るまでには、かなりの紆余屈曲があったことを示しています。

明治初期には、新政府の財政基盤確立のため、地租改正が行われました。その基礎段階として明治五年に区制が実施され、日野地域の五十七町村は蒲生郡第十四く十七区の

五区に分けられました。なお、第十四区に鑄物師村(旧蒲生町)が、逆に下駒月村は甲賀郡第四区に属しました。

また、地租改正を円滑に進めるため、明治七く十二年には町村の分合や改称が頻繁に行われました。一旦は合併を県へ願ったものの、のちに取り下げたりする村々もありました。この時、日野地域では、迫村(上迫村・下迫村)、清田村(五反田村・清水脇村)、松尾町(松尾町上組・松尾町下組・松尾山村)、豊田村(中山村より分村)、日田村(野田村)、日野河原村(河原村)、里口村(野口村)、杉村(林村)、柚村(庄村)が新しくできました(カッコ内は旧名称)。

連合	構成町村名
日野大窪町他連合	日野大窪・日野村井・松尾・日田・木津・日野河原・大谷・上野田・里口(9町村)
西大路他連合	西大路・仁本木・音羽・北畑・西明寺・北蔵王・小井口・寺尻(8村)
鎌掛他連合	鎌掛・上駒月・平子・熊野・南蔵王(5村)
内池他連合	内池・猫田・十禅師・山本・小御門・三十坪・小谷・石原・増田・鑄物師(10村)
別所他連合	別所・迫・清田・深山口・中山・豊田(6村)
中之郷他連合	中之郷・原・川原・杉・柚・小野・奥師・鳥居平・佐久良・奥之池・安部居・中在寺・北脇・蓮花寺・野出(15村)